

## Azithromycinの淋菌性尿道炎への使用経験

木下英親・星野英章・田中元章・石田俊哉・原島康壽  
東海大学医学部泌尿器科学教室\*

5例の淋菌性尿道炎患者にazithromycinを投与した。淋菌は本剤投与後に全例消失し、臨床効果は5例中著効3例、有効2例であった。また、副作用は認められず、本剤は淋菌性尿道炎に対しても有効な薬剤と考えられた。

**Key words** : Azithromycin, 淋菌性尿道炎, 泌尿器科領域, 性行為感染症

Azithromycin (AZM) は、あらたに開発されたマクロライド系の薬剤で、実験的には、*Chlamydia trachomatis* と *Neisseria gonorrhoeae* に対する効果が知られている。

我々は5例の淋菌性尿道炎症例に本剤を使用し、その効果を検討する機会を得たので報告する。

対象は東海大学医学部・附属病院泌尿器科外来を平成4年6月～平成5年1月までに受診した性行為感染症を疑われた尿道分泌物のある患者である。全患者に分泌物のHacker法変法によるGram染色を行い、*N. gonorrhoeae* については、チョコレート培地による培養、Gonozyne<sup>®</sup>法による免疫学的抗原検出と、DNA-probe法を併用した。*C. trachomatis* についてはChlamydiazyme<sup>®</sup>法、DNA-probe法、Micro Trak<sup>®</sup>法で検査した。一般細菌培養も同時に施行した。

AZMの投与量と期間は、1000mgの単回投与が3例、500mg/day連続投与10日間が1例、13日間が1例であった。判定は3日目または7日目に判定することを目標にした。投与後の細菌検査が陽性であった検査法をすべて再検査し、菌の陰性化したものを有効または著効とUTI

判定基準により判定した<sup>3)</sup>。投与対象患者からは全員、同意を取得してある。

検討した5例はいずれも *N. gonorrhoeae* の感染であり、*C. trachomatis*, *Ureaplasma urealyticum* などの検出された症例はなかった。尚、我々の検討例では、すべてが淋菌性尿道炎であったが、*C. trachomatis* への効果も検討するため、最長13日まで、投与期間が延長している。これは初診時の *C. trachomatis* の検査結果が3日後では得られないためであり、*C. trachomatis* が存在したら2週間程度は投与を要すると考えたからである。尚、UTI薬効評価基準でも *C. trachomatis* に対する効果判定は7日目、14日目に行うこととされている。結果としては、いずれも *C. trachomatis* が検出されず、効果を論ずる資料にはならなかった。臨床検査値の変動については検討が行われていない。

結果はTable 1に示した。担当医判定では5例中著効が3例、有効が2例であり、全例に *N. gonorrhoeae* の消失を認めた。症例4はGonozyne<sup>®</sup>法では *N. gonorrhoeae* 陽性であったが、投与開始日の尿道スミアおよび初尿沈渣中の

Table 1. Clinical summary of urethritis patients treated with azithromycin

No.	Age	Sex	Treatment		Urethral discharge	Polymorphonuclear leukocyte	Isolated organism	C.T*	Clinical efficacy		Adverse reactions
			dose (mg)	days					doctor's judgement	committee's assessment	
1	42	M	500	13	+ - (3)	+ 0 (3)	<i>N. gonorrhoeae</i> - (3)	- ND	excellent	excellent	-
2	24	M	500	10	++ - (3)	+ + (3)	<i>N. gonorrhoeae</i> - (3)	- ND	moderate	moderate	-
3	43	M	1000	1	++ - (7)	+ 0 (7)	<i>N. gonorrhoeae</i> - (7)	- ND	excellent	excellent	-
4	57	M	1000	1	++ - (7)	0 0	<i>N. gonorrhoeae</i> - (7)	- ND	excellent	unknown	-
5	26	M	1000	1	++ - (8)	+ - (8)	<i>N. gonorrhoeae</i> - (8)	- -	moderate	excellent	-

\*: *C. trachomatis*

(3): on 3rd day

(7) (8): on 7th or 8th day

-: not detected

ND: not done

白血球数が0であったため、UTI判定では判定不能としたが他の4例はいずれも有効または著効と判定された。また、安全性では5例中いずれも副作用は認められなかった。

AZMは*C. trachomatis*にも有効とされるが、我々は、その感染の症例を検討期間中に経験しなかった。*N. gonorrhoeae*に対する効果は、比較的良くないとされるが我々の検討した症例では無効例はなかった。単回投与でも有効であった。これらの結果から、症例によっては*N. gonorrhoeae*にも有効な薬剤と考えられた<sup>4)</sup>。

#### 文 献

- 1) Foulds G, Shepard R M, Johnson R B: The pharmacokinetics of azithromycin in human serum and tissues. *J Antimicrob Chemother* 25 (Suppl A): 73~82, 1990
- 2) Baldwin D R, Wise R, Andrews J M, Ashby J P, Honeybourne D: Azithromycin concentrations at the sites of pulmonary infection. *Eur Respir J* 3: 886~890, 1990
- 3) UTI研究会(代表 大越正秋)UTI薬効評価基準(第3版)追補(1989 5)。
- 4) 熊本悦明, 広瀬崇興, 他(24施設): STDとしての男子尿道炎と子宮頸管炎に対するClarithromycinの治療効果の検討—特に*Chlamydia trachomatis*感染症を中心に—*日本性感染症学会誌* 4: 96~104, 1993

## Azithromycin against gonorrhoeal urethritis

Hidechika Kinoshita, Hideaki Hoshino, Motoaki Tanaka, Toshiya Ishida  
and Yasutoshi Harashima

Department of Urology, School of Medicine, Tokai University  
Boseidai, Isehara 259-11, Japan

Azithromycin was administered to 5 patients with gonorrhoeal urethritis. *Neisseria gonorrhoeae* disappeared in all cases after administration of the drug. The result was evaluated to be excellent in 3 and moderate in 2 cases. In addition, no adverse reactions was observed. Thus azithromycin was considered to be an effective drug against gonorrhoeal urethritis.